

介護技能実習生「定着」のための入国後研修  
～MARU international 研修センターでの実践内容の報告～

一般社団法人介護事業操練所  
株式会社エルロン

1. はじめに

2017年11月技能実習制度に「介護」が追加された。

介護の技能実習生(以下、「介護実習生」)は、日本語能力が JLPT (日本語能力試験) N4 相当以上の者となっている。

日本語能力 N4 とは、日常生活において簡単な会話ができる段階であり、コミュニケーションがたどたどしい場合が多い。

そうした介護実習生が、介護の専門知識を学び、不慣れな日本語で働くことになるわけである。介護施設に配属されてから、スムーズに働くためには、受け入れ先の介護現場で様々な配慮が必要となるだろう。

また、配属前に実施する、入国後研修の内容も重要になる。

今回は、MARU International 研修センターで実施した介護実習生向けの取り組みについて、効果のある内容であったため、その入国後研修の取り組み内容について実践報告する。当該研修は、3社の専門講師が連携し実施した。

2. 入国後研修の現状と課題

介護実習生は入国後、監理組合や研修センターで約1ヵ月間の入国後研修の受講が義務づけられている。

研修内容は、「日本語」、「介護導入講習」が必須とされている。(※図1参照)

入国後研修【約1ヶ月】

- ① 総合日本語：MARU International
- ② 介護の日本語：エルロン
- ③ 介護導入講習：介護事業操練所

図1 研修センターでの授業と担当

「日本語」は「総合日本語」と「介護の日本語」に分かれており、いずれも日本語講師

が担当する。

一方の、「介護の導入講習」は図2のように介護の経験が豊富な講師が行うことが定められている。

まず、「介護の日本語」についてだが、日本語教師が担当する科目であるが、日本語教師の中に介護現場を把握している日本語教師はほとんどいないというのが現状である。そのため、介護現場の経験のない日本語教師が、不安を抱えながら授業を担当しているということが課題となっている。

次に、「介護導入講習」は図2のように介護の経験が豊富な講師(以下、「介護導入講師」)が行うのだが、外国人に対して講義を行った経験はない。N4相当という日本語が不慣れな外国人に対して、どのように授業をすれば、介護実習生が理解できるのか、その方法を考えることが課題となっている。日本人に対して話すのと同じような講義をしても、介護実習生には全く伝わらないということが生じる。

つまり、それぞれの研修項目に講師の専門外の力が要求されている点で、研修効果が不安視されているのである。

1ヶ月間と限られた研修期間の中で、「介護の日本語」の学習時間は40時間(入国後は20時間という場合もある)であり、「介護の導入研修」は42時間とされている。この限られた時間で、介護実習生が研修内容をよく理解できなければ、病院や介護施設配属後、業務指示が全く理解されないという問題が生じる。

介護導入講習	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 介護福祉士養成施設の教員として、介護の領域の講義を教授した経験を有する者</li><li>○ 福祉系高校の教員として、生活支援技術等の講義を教授した経験を有する者</li><li>○ 実務者研修の講師として、生活支援技術等の講義を教授した経験を有する者</li><li>○ 初任者研修の講師として、生活支援技術等の講義を教授した経験を有する者</li><li>○ 特例高校の教員として、生活支援技術等の講義を教授した経験を有する者</li></ul>
--------	---

図2 厚生労働省

### 3.1 3社で実施した研修の取組み

配属先で技能実習が円滑に実施できるように、MARU International と一般社団法人介護事業操練所、株式会社エルロン 3社が協力し実施した研修内容について報告する。

### 3.2 「介護の日本語研修」に関する取組み

「介護の日本語」は株式会社エルロンの介護の実務経験がある日本語教師がカリキュラムを作成し、授業を行った。その際に、事前に介護導入講師からヒアリングを行い、カリキュラム、専用教材を作成した。特に介護実習生に理解されにくい項目、用語について精査し、効率的、効果的に習得できる教育教材、方法を検討し導入した。また、授業内容については介護導入講師と共有することで連携を密にした。

また、授業スタイルとして、教師が一方向的に知識を説明するのではなく、介護実習生どうしが協力し合いながら考え、課題を解決する「協働学習型授業」を取り入れた。（※写真 1,2 参照）これにより、介護実習生は楽しみながら理解を深められ、理解できるだけでなく、しっかり自分の言葉で説明できるようになった。



写真1 介護の日本語



写真2 介護の日本語

### 3.3 「介護導入講習」に関する取組み

「介護導入講習」を実施する前に介護導入講師に「やさしい日本語」の研修を実施した。（※写真 3,4 参照）

「やさしい日本語」とは阪神淡路大震災を契機に研究された日本語の伝え方である。

震災発生直後、被災者の命をつなぐ重要な防災情報（水、食料、避難所、避難経路など）が、日本語、英語、中国語、韓国語などで伝えられたが、理解されず多くの外国人が被災する結果となった。減災・防災のために開発されたやさしい日本語であったが、N4、N3レベルの外国人とのコミュニケーションに効果を発揮する。

介護事業操練所の介護導入講師は、この「やさしい日本語」を用いて「介護導入講習」ができるように研修を受講し、介護の専門知識や技術を N4 相当の外国人に伝えられるようにした。（※写真 5 参照）



写真3 やさしい日本語研修 写真4 やさしい日本語研修

### 4. 介護導入講師の声

介護導入講師に介護導入講習後にヒアリング調査を実施した。（※図 3 参照）ヒアリング調査結果から、日本語教師との連携した授業と「やさしい日本語」の有効性が確認できた。また、介護導入講師には定期的にやさしい日本語の研修を行い、介護実習生とのコミュニケーションがより円滑に取れるようにしている。



写真5 介護導入講習

- ・エルロンの介護の日本語の後だと実習生は介護の言葉だけでなく、その周辺状況など理解しているので授業が進めやすい。
- ・やさしい日本語を使わなかったら果たしてどこまで理解されているか全くわからず授業することになったと思う。
- ・やさしい日本語の 4 つのポイントを意識して臨めたのでおかげで実習生に専門知識を伝えられた。
- ・介護の日本語の内容を事前に打ち合わせしたので無駄な説明が省けて、授業がしやすかった。
- ・日常的に使用している日本語やカタカナが、やさしい日本語に変換できてない事に気づいた。
- ・自分も日本語がわからないと思って話すことが大事で4つのポイントを意識していく事が最大のポイントだと思った。

図3 介護導入講師へのヒアリング調査の結果

なってくるのではないだろうか。

<お問い合わせ>

一般社団法人介護事業操練所/三上  
東京都病院協会・賛助会員

TEL : 050-5812-0501

HP : <https://www.kaigo-s.com/>

株式会社エルロン/石川

(介護事業操練所 主任研究員)

TEL : 080-7123-2441

HP : <https://www.aileron-jl.website/>

## 5. おわりに

施設配属前の研修センターでの3社の連携した取り組みにより、スムーズに研修ができ、各施設に送り出すことができた。この3社が連携して送り出した介護実習生について、監理団体から「仕事ぶりに関してはどの施設においても問題なく、皆、熱心に真面目に取り組んでおり、現場の職員も指導に力を注いでくれています。みんな仕事の覚えがよいと現場から褒められています。」とのお言葉をいただいている。

一方、「言葉の壁はあって当然ですのでそれなりの努力を受け入れ側も行いながら実習生と接しています。ただ業務上、その動作、作業、行為の意味（利用者様・患者様に対する気持ち的な部分）を理解してもらうのが難しいところもあります。」というフィードバックもあった。

介護実習生を職場で活躍できる人材に育てるためには、配属先も含めた連携も必要に